

おんじゅく

2

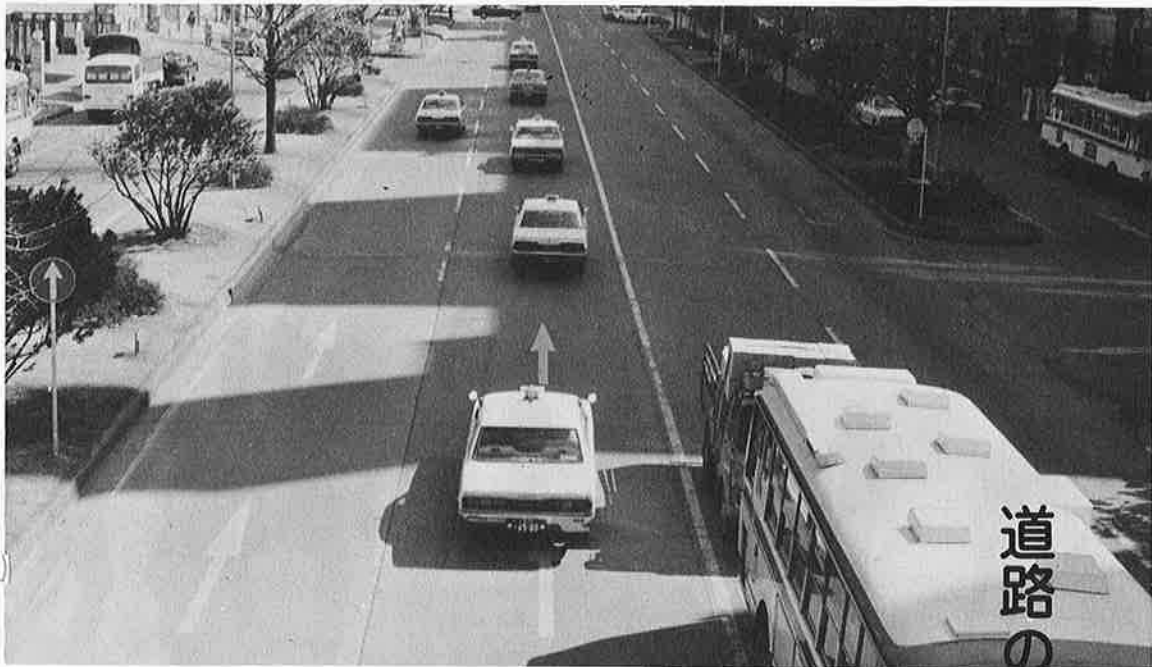
昭和52年 2月

第161号

千葉県御宿町役場



かっこはベテラン級の子どもたち=野沢で



道路の五カ年計画ほぼ達成

道路をよくしてほしい、という町民からの声は後をたたない。毎年、毎年多額のお金を費やし、整備している道路ですが町民の声をきくと依然として「道路」に対する注文が最も多いのが実情です。

▲産業の発展に道路の果たす役割は大きい

住民の強い要望にこたえ

多額の予算かけて整備

町の道路がよくなったなあというのが実感となってきました。それもそのはず、町政のなかで、道路に占める行政の割合が高いし、町予算も道路関連に費やす比率も高いのです。このことを裏返せばそれだけ住民からの要望が多いことにほかなりません。

わけです。

町は昭和四十六年度から道路につき込んだ額を示すと表のようになっています。参考までに農・林道に費やした額についてもふれてみました。

類似した町村

と比べて優秀

道路の整備は、あらゆる産業の発展に欠くことができません。それだけに道路行政に対する住民の関心は他の行政よりも一段と高い

主要幹線道はもとより間道など毎年行われる町政懇話会での要望の

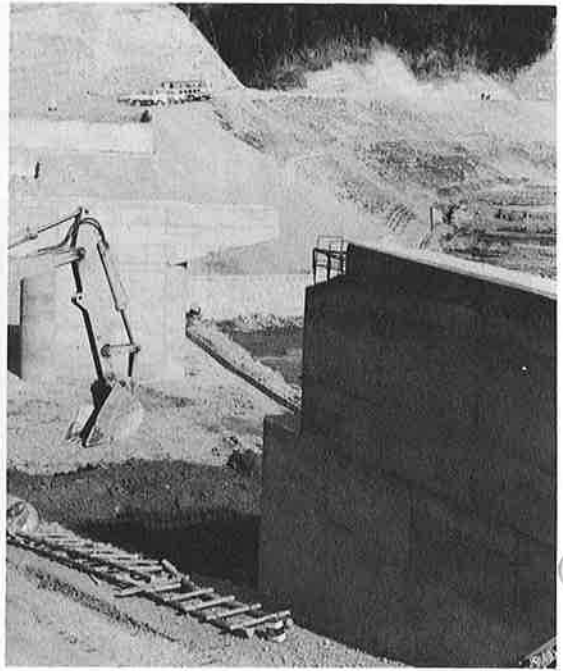
多いものからなるべく要望に沿った線で整備されてきました。そして町道全般の改良、舗装率などを類似団体（財政規模、人口規模等行政規模が似ている団体）の道路整備状況と比較してみても、当町の方が優れており、それだけ道路に対する町政の姿勢が前向きであるといえます。と同時に住民の町政に対する関心度が高いともいえるわけです。

側溝など付帯事業の再点検

これからの道路行政はどうあるべきか、という点から二、三の考え方を示してみましよう。

ほぼ一段落した道路整備とはいえず示したように道路全体からみた改良、舗装もまだ手がけなくてはなりません。それと併行して道路に付随した事業、側溝、排水河川、護岸、橋梁などの再点検をし改良を加える必要があります。また内部の実務的要因として、道路台帳の整備によって、さらに計画的な道路行政を推進することも必要です。

新設道路の建設には、市街化の再開発が前提となりますが、あわ



今後も無限に 続く道路行政

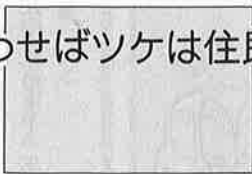
せて考えられることは公共下水道の整備です。これらの事業には、上水道以上の経費を必要としますが恵まれた自然環境と生活環境の向上を図る上からもやがて、その必要に迫られるでしょう。

このように考えてきますと、道路行政（広い意味の）は無限度ともいえます。

一方、住民側からすれば、町政への要望として当然、行政の力で

道路や施設は大切に

こわせばツケは住民に



こうした住民の行政への参画とともに忘れてならないことは、整備された施設を大切に守るという積極的な町政への協力、これからの行政は道路に限らず、すべての心構えが求められるのです。もちろん町政にたずさわる人にも同じことがいえます。この心構えを忘れると結局ツケは住民へ回っていくのですから。

写真（上・右）新しく誕生する道路、山や田が切り開かれ、開発道路ができます（上・左）狭い道路が広い道路に改良されていきます

道路等整備事業費

単位千円 (表1)

内訳 年度	町 道		農・林道	
	事業費	実施箇所数	事業費	実施箇所数
46	38,543	34	29,977	3
47	48,772	28	26,721	3
48	38,762	16	30,577	3
49	46,341	14	38,433	4
50	76,596	26	26,952	3
51	84,179	25(予定)	37,025	4(予定)
計	333,193	143	189,685	20

(注)51年度は見込み

これらの問題の解決は、なるべく早い時期に、と望むわけ

道路改良・舗装類似団体との比較

(表2)

項目	御宿町A	類似団体B	比較A-B
実延長(m)	77,451	186,359	△ 108,908
面積(m ²)	273,755	759,516	△ 485,761
改良済延長(m)	28,096	34,529	△ 6,433
改良率(%)	36.3	18.3	18.0
舗装済延長(m)	23,862	41,347	△ 17,485
舗装率(%)	31	22.2	8.8

昨年の交通事故発生状況

昨年中の交通事故発生状況がこのほど県交通企画課から発表されました。

県交通企画課の発表

死者は日に一・〇六人

前年に比べればやや減少

調べによると、年間発生件数は一万二千八百四十一件となつています。また一日あたり発生件数や前年との比較は表(下)のとおりです。

一日に一・〇六人の死者は前年より減つてはきていますが、依然としてゼロへの道はきびしいようです。

五十一年の事故の発生状況をもう少し具体的にみますと、五月下旬までの死者、傷者とも大幅に増えました。このため、死亡事故抑止緊急作戦、非常事態宣言、街頭監視作戦、事故多発区間の現地診断、事故抑止緊急規制などをたてつづけに実施しました。

減少数は全国五位

この結果、六月以降しだいにその数が減る傾向をみせ、年間の発

年間発生件数

区	分	発生件数	死者数	傷者数	
		51年中	総数	12,841	387
		1日	35.1	1.06	46.3
前年比較	50年総数	12,570	444	16,756	
	増減数	271	▲ 57	180	
	増減率	2.2	▲12.8	1.1	

各表中▲印は減少を示す

死者数の多い都道府県 (全国ワースト10)

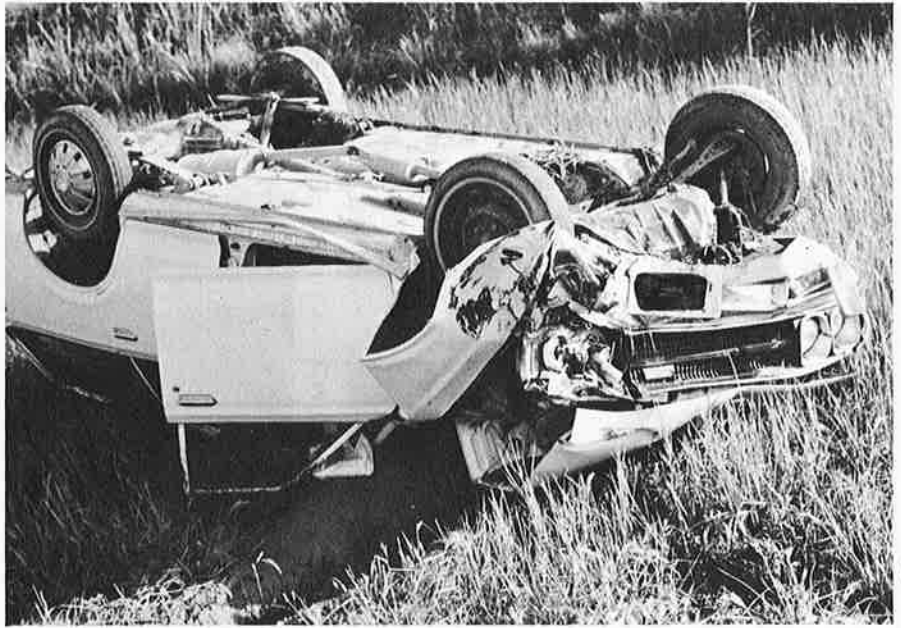
		死者数		前年比較	
		51年	1日	増減数	増減率
1	北海道	482	1.32	▲ 5	▲ 1.0
2	愛知	451	1.23	▲ 9	▲ 2.0
3	兵庫	437	1.19	8	1.9
4	埼玉	410	1.12	▲ 54	▲11.6
5	神奈川	409	1.12	5	1.2
6	大阪	401	1.10	▲ 32	▲ 7.4
7	千葉	387	1.06	▲ 57	▲12.8
8	茨城	374	1.02	▲ 61	▲14.0
9	静岡	354	0.97	▲ 68	▲16.1
10	東京	350	0.96	▲ 32	▲ 8.4
	全国死者数	9,734	26.6	▲ 1,058	▲ 9.8



道路の反対側から急に子どもを呼ばないようにしてください。

生状況は、発生件数、傷者数ともふえましたが、死者の数は減少し(六年連続)減少数は全国五位です。また年間死者数が四百人を割つたのは昭和四十年以来十一年ぶりの記録です。

このことからもうつきりいえるのは、手をこまねいては事故は増えるばかりで、徹底した事故撲滅作戦を展開してはじめて減少傾向を示すというところに、みんな考えなければならぬ点があります。事故が人災であり、それを抑止するのにも人の力です。



あぶない！スピードの出しすぎ

まだ減らない走る凶器

基本的ルール守れば防げる

事故原因別で見ますと、安全不
 確認百二十八人、スピードの出し
 すぎ六十三人、飲酒運転六十八人
 単独暴走八十二人で、いずれも初

老人と子ども に多い被害者

歩的、基本的なルールを守れば防
 げた事故です。

死者のうち、六十三人が老人、

五十五人が子どもと交通弱者の痛
 ましい事故が依然あとをたちませ
 ん。ことしも一月二日に県下で六

人もの死亡事故がおきており、相
 変わらず、きびしい交通情勢とな
 ることが予測されますので、運転

者はもちろん、歩行者、自転車も
 おたがいに「安全を確かめよう」

をスローガンとして掲げ、町民は
 もとより、県民の安全意識を盛り

上げるほか、関係機関の協力をえ
 て、事故内容に対応した総合的な

事故防止策を積極的におすすめ事
 故ゼロへの悲願達成にむかつて努力

する必要があります。

事故の恐ろしさをもう一度考え
 てみよう。

クラブ未加入者に多い

年寄りの交通事故

第十一回千葉県交
 通安全県民会議全体
 会議における夷隅地
 域からの提案(要旨)

◇老人クラブ未加入者について
 交通ルールなど安全教育を行う
 機会がない。老人の事故が多い
 なかで、未加入者の事故が多く
 老人間にも差があり、交通安全
 教育の周知徹底ができないのが

現状である。このため、未加入

者のクラブなどへの加入の推進
 を図ってもらいたい。また事故

原因者は不注意と気のゆるみに
 よる場合が多い。精神的欠陥が

あるのではないか。交通心理学
 の研究など心理的な面での対策

を考え、対象者別のPRなどわ
 かりやすいパンフレットを作成
 し配付してほしい。

契約の相手方

株式会社 大英組

契約金額

二千四百二十万円

る条例の制定について

給水人口を七千六百から一万

二千五百人に増やしました。

また、一日最大給水量を三千二

百立方メートルから五千九百八十

五立方メートルに改めました。

給水人口の見直し

臨時町議会終わる

上水道事業の給水計画人口の見
 直しなどにもなう町水道事業の
 設置などに関する条例の一部改正

と農道舗装工事の契約の締結につ

いての二議案を審議する五十二年

第一回臨時町議会は一月二十八日

開かれました。

議案第一号 御宿地区農道舗装工

事に関する契約の締結について

契約の相手方

株式会社 大英組

契約金額

二千四百二十万円

る条例の制定について

給水人口を七千六百から一万

二千五百人に増やしました。

また、一日最大給水量を三千二

百立方メートルから五千九百八十

五立方メートルに改めました。

夷隅地区開発計画の変更によつ

て、これらの条例改正が行われた

わけですが、開発計画、それにと

もなう上水道計画については後日

その計画のあらましを発表する予

定です。

墓地の清掃を40年 関さんに小さな善行賞



墓地の清掃を四十数年もつづける供養をし、祖先を敬っている関はつさん(新町)に小さな親切善行賞が贈られました。このようなことをするようになつた発端をたずねてみました。

「家庭内の円満と子孫を末永くまもつてほしいと祖先においのりしました。最初は親の命日にちなんだ、墓参りをしていくうちにせっかとお参りに来たのだから、ひとさまの墓地もきれいにあげようと思って」

それ以来、主人の友達の墓地から無縁仏まで、はき清めるよう

になつたそうです。もつと若いころは、夜十時になると仕事を終えてからお参りを続けたという。共同墓地のまわりに植木を植えたり、危険物を一個所に集めて、ごみ収集車に運んでもらつたりしているうちにだんだんと墓地のまわりがきれいになつてきました。「祖先の眠っている墓地がきれいになつて、すがすがしい気持で、祖先に對面できます。自分の過去の苦勞が報われるような心境」としみじみと話してくれました。

写真〓善行賞を受ける関さん

この作文は第24回たすけあい作文コンクールで入賞したものです。

役に立たなかつたけれど

御宿小五年 佐藤 武司



「たいへんだよう。」自転車で

ラスでもさしたのだろう。ぼくは何も持っていなかった。ハンカチやはな紙を持っていなかったのが学校の衛生検査で×をもらう時よりももつとくやしかつた。

「よし、くすりを持ってきてやる。」というと、その子はうれしそうに、「うん。」と、うなずいた。もう、血が少しかたまつて、止まりかけていたので、くすりをつけて、きずばんでとめれば、家に帰れる。と、ぼくは思ったからだ。弟に、「ここで待っている。」

というと急いで自転車で乗った。ぼくは、何も考えないで、いっしょうけんめいに家まで走つた。家に着くと、薬のあるへやへ飛びこんだ。薬はこの中から、きずばんそうこうと、わたと、消毒薬を取り出して、ビニールぶくろに入れると、ろうかをかけた。おぼあちゃん、

「どこにいくんだい。」と聞いた。「ちよつと。」と答えて、げん関をとび出し、自転車で

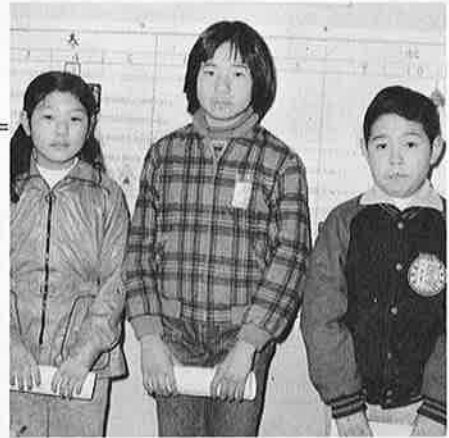
川で遊んでいて、きつとが

かけより、ビニールぶくろを結びつけて、走りはじめた。「おくが深いかな。あの血のようすじや、そんなオーバーじゃないな。」と考えながら走り続けた。ハンドルをつかんだ手があせばみ、少しふるえていた。近いと思つた家から川までの道が、とても遠いと感じた。

川岸に着くと、ビニールぶくろをぎゅつとつかんで、さっきの所までかけよつた。だが、だれもいなかった。近くをすばやく見回したが、やはりだれも見回しなかつた。近くをすばやく見回したが、やはりだれも見回しなかつた。やつとさがし当てたのは、草のかげで、砂に絵をかいている弟だつた。少しはなれた川の中で、さっきの二年生の男の子が二人、小さいさかなをつかんでいた。ぼくを見つけると、「かずなり君は、自転車できた中学生のおにいさんに病院まで連れていってもらったよ」といつた。ぼくは、弟に、「ほんとうか。」とたしかめた。弟は、「うん。」と言つた。

ぼくは、「としお、いっしょに帰ろう。」と弟をさそい、自転車を引っぱつて歩き出した。「ああ持つてきて、そんな。」と思わずいつて、ため息をついた。「なんで。」と、弟がふしぎそうに聞

岩和田小の3人入選 国民安全の日のポスター



入選した左から大野、土井、田原くんら

国民安全の日のポスターに応募（県下八八校、四九四点）した、岩和田小学校六年生のつぎの人たちが高学年の部で、見事上位入選しました。

入選した大野さんらは、日ごろから絵に対する研究心が盛んで、指導にあたる先生になにかと質問をし、助言を素直にきいて、欠点をなおし、納得のいくまでやり通すという、やる気のある児童だということである。

第一位 大野和美（岩小六年生）
第二位 田原 豊
（同）佳作 土井美知栄

町政のポイント……きれいな町づくり——ごみ処理

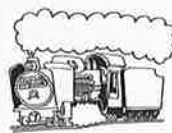
いた。ぼくはそれには答えなかった。でも何だか、自転車をひっぱる手は軽かった。小さな声で歌い出したら、弟もまねをして歌った。ゆつくりゆつくりと歩いて帰った。夕ごはんの時、母に、きょうのことを話した。母は、「親切をしようとしたことでいいんだよ。」とうれしそうに言った。ぼくは、「やっぱりこれでいいんだ。」と思つた。そして「あの時、ぼくも自転車だったんだから家まで連れて

御宿小に知事賞

第24回たすけあい作文コンクールで、御宿小学校が知事賞に、また個人賞では同校五年生の佐藤武司くんが優秀賞（千葉県社会福祉協議会会長賞）に選ばれました。

てくればよかつたんだ。でも、川の中だから、もしばいきんでも入

っていたら、ぼくにはうまくできなかったろうな。だから、やつぱり病院へいった方がよかつたんだ。早くなおるといいな。」と考えた。ぼくはとたんに大きな声でごはんのおかわりをした。みんなが声を立ててわらつた。ぼくもいっしょに大わらした。



生活様式が多様化し、高度化するにつれて、物が豊富に出まわり大量に消費されます。それにつれてごみの量もふえ、この勢いでいくとごみ処理場は近い将来、飽和状態に達します。

ひとつのようには使い捨て、消費は美徳といった風潮は影をひそめたものの、まだまだ、物の新陳代謝ははげしく、台所から出る生ごみ、ダンボール、包装材料、雑誌、新聞、書籍類、日用品雑貨類、空ビン、空カン、空箱などごみ焼却場へ運ばれる品に事欠きません。

また当町の場合、夏になると町の人口の数倍の人が入り込み、そこで消費し、持ち寄って捨てていくごみの量もバク大。一日十トンペースで焼却する処理能力をもつ焼却場もこの時期になるとパンク寸前です。ごみの山があちこちに出来ないよう収集をフル回転するには、野外投棄をするしかありません。

このため、ごみ投棄の場が段々とせまらなれ近い将来ごみ捨て場に困まることは明らか。この場所さがしがまた一つの頭痛のタネになりかねません。野外投棄を認め

ると、決められた所以外にもやたらとごみを捨てたがる人がでてきます。一人の人がすてると後に続いて捨てます。これを処理する人とすてる人との根くらべがはじまります。

ルールは必ず守ってもらわなければ困ります。ごみの山の点にする観光地なんて世界中どこを探してもありません。

ごみの量は文化生活のパロメーターとか。ごみの山は、その町に住む人の程度の低さを示します。環境の美化は、精神的改革と体を動かし守ることで。

ごみ焼却場施設維持費等 (50年度決算より)

費用		財源	
人件費	千円 10,267	使用料及手数料 (ごみ手数料)	千円 3,933
物件費	3,779	税など (一般財源)	10,267
その他	154		
計	14,200	計	14,200

美しい街路灯 が一九七灯も

街の美観と防犯の意味から町商工会（滝口一夫会長）が中心となり街路灯一九七灯の建設をしました。歳末商戦たけなわの昨年十二月に完成し、明るい商店街に生まれ変わりました。

町商工会、観光協会、旅館、民宿組合、商店振興会で街路灯建設



委員会を組織し、建設にとりくみました。いままでの街路灯は昭和

四五年に改築以来、商店街の活気と防犯に大きな役割を果たしてきま

ましたが、六年もの間、風雨に耐えてきました。しかしこのままでは

修理費がかさみ、危険な状態なので、新装することになりました。

なお、今回の街路灯建設にあたり、つぎのような寄付がありました。

ユーモアクラブ3灯

商店振興会

商工会

民宿組合

旅館組合

補生堂

小学校横通り

5灯

商店街の空地

3灯

駅前より赤樽

2灯

駅前

1灯

商店街空地

「役場、って どんなところ」

御小3年生が勉強

役場の仕事にはどんなものがあるのだろうか。また、役場ではどんな人が働いているのだろうか。といったことを調べるために御宿小学校三年生（長谷川、鶴沢先生）七十七名が、二月一日役場を訪れました。



課や部屋のおもな仕事の説明をききました。そのあとで、全員が会議室に集まり、議会のはたらきや町の仕事の種類、施設の種類、町の将来の計画いま役場で困っていること道路や学校がどうゆう手続きで作られるのか。といった、するどい質問をし、自分たちの町のように勉強しました。



心をつなぐたつたつと言



毎月第三日曜日は家庭の日
家族そろって話し合いの時間
をもちましよう。

寒風ついて
健脚を競う

夷隅郡一周駅伝

底冷えのする二月十一日、
午前九時すぎ役場前スタート
地点へ集まった第一走者十五
名は、慎重な準備運動に入っ
た。

スターター岩井町長の右手
が高くあがりピストルの音と
ともに勢いよくスタートした。
第二回夷隅郡一周駅伝大会
は、中学、高校、一般の部（各
町対抗）がいつしよになって
力走した。参加チームは十五
チームで当町の成績は三位。

この時期は生活
に「はじめ」を

春は、入学、卒業、就職などの
シーズンで、新しい門出を祝うと
ともに青少年の生活にはじめをつ
けさせる時期です。

青少年は、新しい生活に対する
希望と不安が交錯し、とかく心の
安定を欠いたりする時期でもあり



ます。

1 青少年の仲間づくりを進めよ
う。

2 青少年との対話を進めよう。

3 明るい社会環境をつくろう。

などの重点目標をかかげ、青少
年の健全育成に家ぐるみ、地域ぐ
るみ、町ぐるみでとりくみましょ
う。

スローガン

『青少年に夢と希望を』

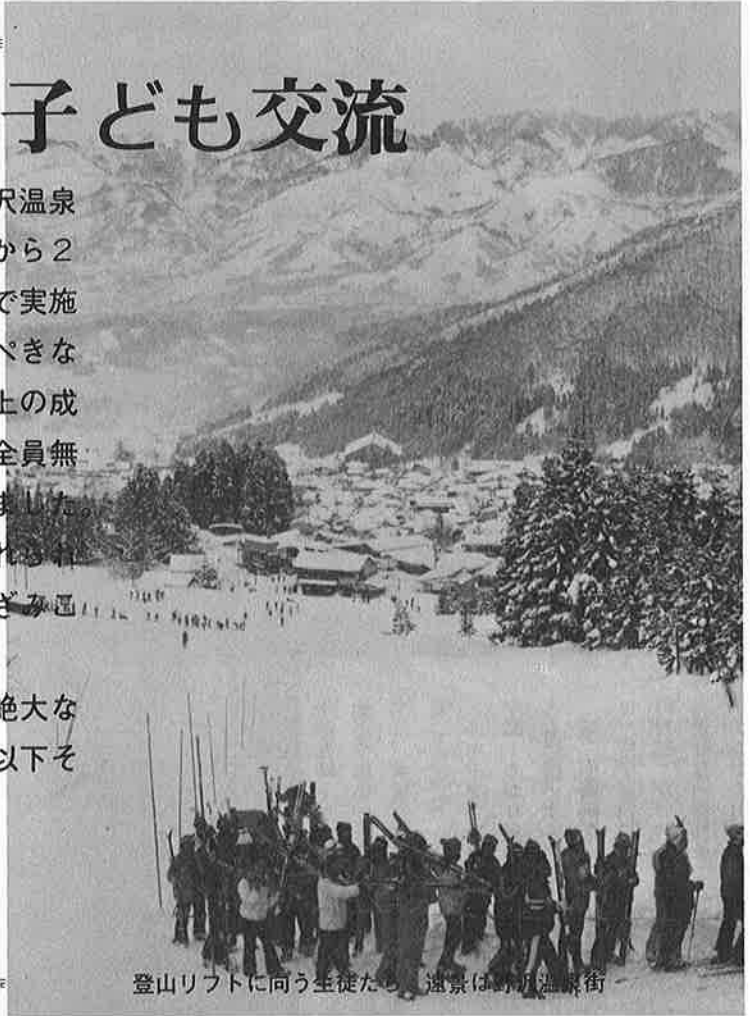
海と山の子ども交流

交流2年目、第2回の野沢温泉村訪問は、1月30日(日)から2月1日までの3日間の日程で実施しました。野沢温泉村の完ぺきな受入体制によって、予想以上の成果をおさめることができ、全員無事故で元気に帰ってまいりました。子どもたちの胸に、一生忘れられない思い出として、深くきざみ込まれたことでしょう。

各方面から有形、無形の絶大なご支援をいただきました。以下その状況を報告いたします。

委員長

金井英一



登山リフトに向う生徒たち。遠景は野沢温泉街

ホンモノのスキー楽しむ 着いた翌日のコースで

あらすじは次ページの「野沢の日程」の通りである。しかしこれは報告書として適切ではない。まず、少なくともスキーを知っている人ならば、だれも信じられないだろう。

その疑問は、これからのべる報告によって、おのずから明快に水解することであろう。

「海と山の子どもの交流」といえば、全国あちこちでやっているようで、その常識からいえば「海の子にスキーを」「山の子に海水浴を」ということで、海岸の子ども達はスキー場へ行って雪ダルマを作ったり、スキーを習ったり、ミカン拾いをしたりして終日楽しんだ。というようなことが、あらかたの新聞記事である。しかし、ただ、それだけのことならば一ヘクタールほどのグレンデがあればよいわけで、バスで数時間でいける関東周辺の猫の額スキー場で十分事足りる。何も一二時間も走らなければ着けない野沢温泉を選ぶ必要はない。そしてまた、そのくらいのことならば、なにも片桐匡さんや私が乗り出すほどの事業ではない。

非難するかも知れない。山の上はマイナス一〇度にも達するだろう。どういう装備だったか、落伍する者もあつたらう。その処置は？ほんとに無事故だったのかと。

野沢温泉村との交流は、もともと深くもつと大きい、くめどもつきない値打ちと内容を持っている。交流の対象として、野沢温泉村ほどすばらしい村はない。それは次の三つの点で、すぐれている。

①かねてから細やかな人情、律気で素朴、世に知られた土地柄

である。

②民宿三五〇軒。スキー場事業は全部村営。来年は野沢国体。

村議会は一億円の予算を可決した。上下水道ガス完備。オーストリアのサンアントンと姉妹村を結ぶ民度すぐれた村である。

③人口五〇〇〇の村で、オリンピック選手が七人も出た。村ぐみのスキーの伝統。完ぺきなスキー場管理体制。日本一流の指導陣。

多感な年頃の中学一年生。胸に刻みこむような、一流の、ホンモノを見せるべきだ。

こんな主張ではじまった野沢温泉村との交流なればこそ、夢がある。昨年、めでたく第一回の相互交流を終って、今回の野沢スキー行には深く心にきめた計画があった。それは御宿の子どもたち全員を、あの山の上に立たせたい。雪のアルプスを見せたい。雄大な景観を胸にきざみつけよう。それは一生消えないものだ。そして自分の力で滑って下山させよう。これも一生忘れられないものだ。野沢温泉村のスキー場設備、管理体制指導陣を考えたとき、私の胸のなかには、いささかの不安もなかった。野沢側にとっては、ずいぶん

迷惑な話で、苦笑するかも知れないが、そんな考え方を含めて、今年の計画は慎重に練られたのである。

皮手やゴーグル、ヤツケ

今年の装備は文句なしの満点

心の準備、体調をととのえること、これは学校にお願いすることだ。ことし、私が直接気を配る必要のあるのは、装備だ。はつきりいって昨年の装備ではダメ。安いことばかりが強調されすぎた。私自身もうるさい話から逃げすぎたようである。麓の向林ゲレンデですら、濡れ、凍えていた。

耐える訓練を、こよなき美徳と
山は標高が一〇〇m高くなるごとに、〇・六度ずつ気温がさがるだから昨日の向林ゲレンデ標高六〇〇mが、マイナス五度ならば、標高一三〇〇mの山の上はマイナ



ウワー雪がギシギシいってる。小毛無の平(標高1300メートル)から10キロの大滑走がはじまる

野沢での日程

- 参加 155名
 中学1年生 125名、
 関係者30名
- 1月30日(日) 晴。御宿町役場前を朝5時発、バス3台夕方6時野沢温泉村着。野沢は雪、民宿4軒に分宿。
- 1月31日(月) 小雪。朝8時30分宿舎出発。麻釜見学。スキー資料館見学。9・30-正午、伊勢宮公園ゲレンデでスキー講習。
 1・30-3・00向林ゲレンデで子ども交歓会。
 3・00-4・45スキー講習。
- 2月1日(火) 晴一昼頃小雪。3時ごろから大雪。リフトで毛無山、標高1300m地点まで登る。午後上の平、灯籠木峠を経、標高650mの資料館前までスキーで下る。この間10km。夜7時、野沢温泉発。
- 2月2日(水) 朝6時、御宿町役場前着。





今日はほんとに山の上へつれて行ってくれるのかな＝民宿の前で

ス九度か一〇度。それにガスがかり風が強いから実際はもつときびしい。

まず、本格的な皮手袋、耳まですっぽりおおう厚い毛糸のスキー帽、吹雪用のゴーグル、鋭い寒風を完全にシャ断するウインドヤッケ、それにオーバースポーン。この五点だけはどうしても私が見てやらなければならぬ。それに昨年は、きめられた服装が粗末すぎると、こつそり数万円を投じてスキー衣料品を買いととのえた親たちの例もあつて、それが必ずしも

適切なものではなく、子ども達の間にも格差が出てきてしまったこともあつて、反省材料とされている。今年はずいぶん全員の間にしたいが、前記の五点を胸算用してみると、どう計算しても最低一五

バス三台で元気に出発

御宿中一年生一二五人、遠山校長以下教諭一人、教育委員会から目良教育長、朽方先生、PTA西川会長、関(亨)副会長、渡辺副会長、土屋、加藤、鈴木、井上

〇〇〇円にはなる。学校の授業を休み、義務教育の生徒全員をつれて行くのだから、金がかかりすぎるといわれるのが一番問題。どの位ならよいかアンケートをとると五〇〇〇円〜六〇〇〇円と出た。よろしい、何とかしましょうと引き受けて見たがそう簡単なものではない。錦糸町に本社のある株式会社ヤバネスポーツに頭を下げる。この「子どもの交流」の意義を説く。皮手一個の値段ですと苦笑しながらも承知してもらおう。皮手ゴーグル、帽子、防風ヤッケ、オーバースポーン、五点全部で五五〇〇円。ともかく常識の外の協力である。

野沢へ着いたら開口一番。「今年はずいぶんと装備がよいですね」と言われた。生徒たちも肩身が広がったろう。よかつたなあ。ヤバネスポーツさん、本当にありがとう。

◆野沢温泉村到着◆

バスは快調に走り飯山までは予定より早かつたが、野沢が近くなるにつれてピッチがにぶる。雪が深いのと、日曜日なので帰りの車が多く、すれちがいに苦労するためゆるゆる運転。十数年来の大雪山で、道の両側の雪がだんだん深くなる。

にぎやかなバスのなか

日(日) 午前四時半役場前はずでに生徒たちの父兄百数十名が集まり熱気すら立ちのぼっている。吐く息が白い。つごうでいつしよに行けない貝塚町議も見送りにきている。委員長と校長の、「あづかりました。行ってまいります」のあいさつで午前五時出発。

「三無無い、まだ足りない」と子どもたちがさわいでいる。三無ないと、野沢ではないような口ぶり。雪国の屋根の雪おろしの話を聞かせてやる。なまけると、雪の重みで家がつぶれてしまう話をする。すると子どもたちは、雪おろしをしていない家を見つけては、「ウワーあの家なまけもの」「ほらあそこにもなまけもの」とさわいでいる。苦笑。「おーい、野沢へ着いてからそんなこというな」と釘をさしておく。公共のことを優先して、自分の家のことを後まわしにする性格の人もある。予定より三〇分おくれで、夜六時野沢温泉入口着。役場職員が待機していてくれてバスに乗りこみ温泉中心街の観光協会事務所前まで進入させる。普通のバスはここまで入れない。降りしきる雪のなか森村長、河野総務課長、松村観光企業課長、片桐匡さん、富井委員長、嶋田民宿組合長、中学生代表、宿泊民宿のご主人など多数のお出迎え。おたがいに儀礼的なことは省きましようとして連絡してあつ

子どもたちはたちまち上達



講習後、1時間こんなにうまくなりました—資料館前で

たのだが、やはり律気な土地柄なのだ。民宿はバスを降りた所から至近距離のところに設定されていた。目の前が馬場荘(本部)、学校、P.T.Aは福島屋、池分、丸と屋の三軒にクラス別に入る。各民

宿には、生徒が明日から使用するスキーぐつとスキーがあらかじめ送ってある寸法表に合せて届けられている。夜のうちにめいめいぐつとスキーを合せる作業が楽しく続く。

◆いよいよスキー◆ 一月三日(月)朝起きてすぐ窓の外を見ればよいのにな。八時半、野沢温泉村役場職員の案内で宿を出発。少しまわり道だが野沢温泉の源泉「麻釜」を一周して登る。役場の宮崎係長の携帯マイク

による説明は歯切れがよく極めて明快。日影連絡リフトに乗る。生徒はみんなはじめてのことなので順番が近づく、「キヤーツ、キヤーツ」と言っしりごみする。リフトのおじさんたちはおもしろがつて、「みんな注射の順番待ってみてえだな」と笑いながら、一

人一人しっかりとリフトに乗りこませる。

昨年カマクラや雪だるま遊びをした伊勢宮公園の一角に、こじはすばらしいスキー資料館が建っている。「ウワーこれ新聞に出てた」という生徒の声。野沢のこと

という何となく関心をもつようになっているのだろう。白いレンガの壁、屋根に塔、そしてシンボルのほとぐるま。ヨーロッパの教会風のスキー資料館には、日本のスキーの歴史の思い出の品々が展示されている。片桐匡さんのお話をきく。生徒達の関心の中心は

野沢の子たちと仲よく練習

◆生徒交歓会◆ 一二時。美雪

でんべえ、シュナイダー三軒の食堂で昼食。一割引き。一時今度はリフトを使わず日影連絡道路をスキーで下る。あるかなしかの下り坂だが、あつちでもすつてん、こつちでもすつてん。子どももおとなも、すつてん。すつてん。井上(泰)さん、松本(光)さんは昨年の野沢以後、秘密練習をしたかいたつて、さすがに一日の長。一時半、向林ゲレンデで中学一年生の交歓会。森村長あいさつ。ペナン

何といつても、金メダルの笠谷選手がそのとき使ったジャンプ用スキー。いつでもすぐ費用を聞きながら人のために—建設費七六〇〇万円です。ただしほんとは展示されたなかみの方が大へんなねうち。

九時半—一二時、生徒は一〇班に、おとなは二班にわかれ資料館前ゲレンデでスキー練習。指導員は片桐匡氏、内田政治スキー学校長以下、全日本公認の一流指導員一四名。公民館を案内してくれた教育委員会の坂井田繁さんも指導員のなかまにまざっている。降り

トプレゼント、ノルディック、アルペン選手のデモンストレーションなど。つづいて各班の野沢、市川両中学の生徒がまざりスキー練習。ぐんぐん成果があがる。あすはぜひ山の上まで登らせたい。だからとまれるように、曲れるように。指導員はもう一生懸命、汗を流している。

◆おとなの交歓会◆ 生徒は夜は行事なし。早くやすませる。夜野沢温泉村側から招待あり。御宿側九人、野沢側九人これは昨年も

しきる雪を吹きとはすような熱気につつまれ気合の入った講習二時間半。早くも神経のよい生徒のスキーは回わりはじめています。中学一年生、一番神経がすぐれているときなのだ。ましてやこの指導陣それが各班競争で白熱化している。昨年もこのことを書いたかも知れないが、普通初心者の方がスキーを教わる場合、このような陣容の一流指導員に恵まれることは、まず有り得ないであろう。交流なればこそ、まさに日本一のスキー学校の景観である。子どもたちは本当に幸せだ。

九人、この人数は増やさないうよう申し合せがある。この交流事業の永続をねがって乾盃。場所はあぶらや。夕方六時半—八時。

慎重に準備して計画を決行

◆念願を達成◆ 二月一日(火)

夜明け。気になって眼がさめる。窓の外を見に起きる。バンザイ。星が出ている。よーしきょうはやるぞ。もう一度寝る。「青空だ

青空だ。」とさわぐ声で眼をさます。「わかっているよ」と落着いたふりをする。

向林九時半集合。気温マイナス五度。内田スキー学校長と最終打合せ。決行することにする。内田校長は各班指導員に指示。生徒たちのスキーとストックを一本に、固くしぼらせる。長い長いリフトに乗るのだから。出発。

まず⑩リフト(長坂第三リフト)長さ一二九四m、つづいて⑪リフト(湯の峯第一リフト)長さ六六



親たちは第十一班
なかなか歩けませぬ

一m、さらに⑫リフト(湯の峯第二リフト)長さ九四一m、延長二八九六mを乗りつき毛無山標高一三〇〇m地点まで達する。一気に七〇〇mも高度をあげたことになる。リフトがせり上るにつれて子どもたちは「キヤーツ、キヤーツ」と大へんな悲鳴。「キヤーツ死んじゃう」と呼ぶ女の子もいる。平

気、平気、そんなのは無視。野沢の女の子たちも、昨年の夏、御宿で漁船に乗って、うねりを超えるたびに「キヤーツ、死んじゃう」と叫んでいた。そして船を下りたらケロッとして「もう一度乗りたい」と目をかがやかしていた。女の子は、新しい体験には思いっきりオーバーな表現をするものだ。薄陽に映える落葉樹の美しい霧氷。新雪の上のウサギの足あと、それはもう美しい童話の世界。鮮かな印象として残ることだろう。全員「小毛無の平」に集結。ここは気温マイナス九度。雪が片栗粉のようにギシギシ音を立てる。指導員はもう一度細部を打合せ、自分の班員を掌握する。最後尾をパトロールが固める。ゆるいスピードだけれど意外とスピードが出るあつちでも、こつちでも「キヤーツ止まらない」でも平気、まった

く安心なスロープである。上の平一二〇〇m地点まで2kmの滑走。男の子と女の子、運動神経の良し悪し、大分差がついてきている。一番ダメなのはおとな。万に一つの落ちこぼれないよう私は登りJパーリフトを使って2kmの間を往復した。最後にあまり遅い数人(おとな)を雪上車が迎えに行き乗せてくれる。スキー場で雪上車に乗れるのは、国体会場の皇太子

◆御宿中特設コース◆ 各班上の平の緩斜面を講習をしながら滑り降りる。約1kmのゲレンデ。他のスキーヤーとまざりあいながら。私はリフトを使い三往復して全体を確認する。各班の指導員、ピタッと生徒を掌握して一人の落ちこぼれもない。しかも最後尾には、スノーボートをひいたパトロールがついている。さすがは天下の野沢。まったくみごとな体制だ。やがて緩斜面は終わり、初心者進入厳禁の柵にぶつかる。

ご夫妻だけかと思つたのに。村営湯の峯荘に二時集結。どうも天候が崩れるようなようすである。上の平での講習の予定をとりやめ、昼食後、早目に山を下ることにする。7kmの行程である。生徒の各班かりリフトで降りる組を抽出した方が早い。一〇人。各班指導員人員掌握。出発一時。三時に昨日昼食した食堂でんべえ前に集合と決める。

ジャンプ台と同じ位の三七度の壁である。来年の野沢国体、大回転コースである。ちなみに、この落差四〇〇m、でこぼこのはげしい急斜面を選手は二分とかららずとばすはずである。いつもここに来るとムズムズとして力がみなぎるのだが、今日はダメ。生徒と一緒に右に折れて初心者コースへ。初心者コースを下ること一キロこれも歌に知られた灯籠木峠にかかる。本来の初心者コースはここから左に折れて谷をじぐざぐに下るため少し急になる。

道直進を指示している。冬の間は訪れる人もない灯籠木峠の屋根に雪上車を入れて幅三m長さ3km余り、御宿中専用コースがつけてある。「これではまったく皇族のスキーみたいなものだ、過保護だな」と思うが、やはり何ととっても方に一つの事故、一人のケガも予防しようとする野沢温泉村側の配慮が痛いばかりに胸にせまる。

するする、するするとスキーは自然にすべり、じぐざぐにどんどん山を下って行く。眼下には絶えず野沢温泉村の全景があり、これがだんだんと近づいて、大きくなってくる。ちらちらとしていた雪がいつのまにか本降りとなつてきた。ゴーグルをかけピッチを早めさせる。二時半にはほとんど「でんべえ」前に集結したが、一人だけ到着せず。雪がはげしくなってきたので全員を「でんべえ食堂」内で休ませる。スノーキャット(小型雪上車)発進。残りの一人、それは特別目方の重い生徒の一人が、パトロールの助けを借りず、頑として超スローモーター下りてくる。それを強引に乗せてくるためだ。スノーキャットに乗った最終走者が吹きしきる雪のなかをゴールインして拍手。

まるで皇族のスキーのよう

この先が「みがく男のナア、舞台はここによ」と唄われたシユナイダーコース、チャレンジコースだ。上からのぞいても見えない。

御宿の子どもたちは、まだよく曲れない人がいるので、特設コースが作られている。指導員が尾根

全員が十キをすべり降る

◆落差六五〇m◆ ちよつと余談だが、ほんの少し外国の話。

野沢温泉村と姉妹村をむすんでいるオーストリアのサンアントン村。ここはヨーロッパスキーの本場である。サンアントン標高一三

〇〇mから高速ケーブルに乗り、ぐーつと一気に登るとあつという間にバルーが山の肩に着く。ここが標高二八〇〇m。ここからサンアントンまで落差一五〇〇m全長九kmが痛快さわまりない。

もう一つフランスはモンブランシャモニー。シャモニー標高一〇〇〇mからブレバン山標高二五〇〇mまで高速ケーブルでぐーつと登る。これまた、針のようなモンブランの峰々を眼の前に、落差一五〇〇m全長八kmの大滑降。この二つはヨーロッパスキー場の有名なスキーコースで、私もヨ

一生の思い出 ……となろう

一年A組

吉野 幸千代

忘れられぬ野 沢の人の親切

一年B組

山下 友子

がんばりの気 持を教わった

一年C組

山下 明子

今、ふり返って考えてみると たった三日間のことだったけれどとても楽しかった。じょうずにはすべれなかつたけれど、みんなと同じに出来たことが、何よりうれしかった。指導員の先生もとても優しく、ていねいに教えてくれ、野沢中学校の生徒とも仲よくなれた。そして、けがもなく無事に、帰ってこられた。こんなうれしいことはなかった。一生、中一の時、野沢へ行ってスキーをやったことを忘れな

野沢の友だちは、とても親切でいまでもその親切は、忘れられません。「どうやれば、ころばない」なんて聞くと「気の持ちようどころばなくなるよ」とてもやさしくて、すぐなかよしになれたほどでした。山の人は、おとなしいと聞いたことがありますが、明るくそしてとても話しやすかった。野沢をたつとき、その友達が見えなくなるまで、見おっくつてくれました。とてもうれしかったです。

この交流は、私にたくさん思い出をつくってくれました。御宿と野沢の生活のちがいが、生まれてはじめて見た長いツララ自分の子どものように気を配ってくれた民宿の人々の親切、そしてあの指導員の先生に教えられた根性……。これらは私自身大いにプラスになったことばかりです。今度野沢の中学生が来たときは、私が招かれた時以上に楽しい思い出が残るようにしてあげたいと思います。

夏は御宿の海へ来てね

◆さよなら野沢温泉村◆ 民宿にもどり夕食休憩。夕方六時半温泉街中心地観光協会事務所前でバス乗りこみ。武井議会議長。片桐匡さん。森覚さん。内田スキー学校長、河野総務課長、松村観光企業課長、嶋田民宿組合長等々それに中学生、小学生の代表数十人の見送り。名残りはつきない。雪は舞い、温泉街の灯に映え、ひときりわ詩情を増す午後七時。ホワーン

こまれるにちがいない。どうだスキーつてすばらしいだろう。よかつたなあ諸君。諸君は幸運だ。スキーの一年生、二年生ぐらいはせいぜいゲレンデの片すみの一ヘクターほどの行動半径しかないのが普通なのだ。これだけは忘れてはいけない。みんな野沢温泉村の人たちの万全の準備と安全管理体制のなかでこそ、できたのだ。つまり御宿と野沢の交流があればこそなのだ。三時半閉講式。全員整列。内田スキー学校長はじめ、指導員の先生方に「ありがとうございました」そして「シー・ハイル」のエアール。森覚さんの音頭。

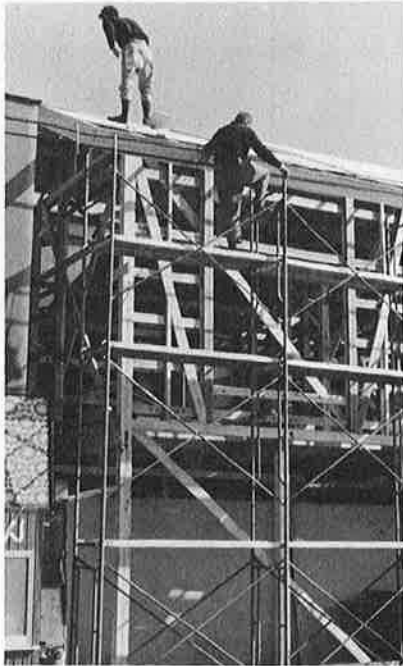
と大きくバス出発の警笛が夜の空にひびいて、わーつという歓声「さよなら」「夏きてね」と生徒たちの声がとびかき、五色のテープが舞う。バスはチェーンの音をきしませて動き出す。二五人の子どもたちにとつて、あまりにも鮮烈で、あまりにも短かすぎた野沢スキーの閉幕である。野沢温泉村の皆さん。ほんとにありがとうございました。



団体紹介⑤

優秀な後継者の育成に本腰

建築組合連合会御宿支部



若い後継者を育てよう。それは、基礎をみっちり習って、立派な技能工に育ってもらおう、また

働く職工さんの身分の保障や労働条件をよくしよう。そうしないと後継者は育たない。と四年前に設立された県建築組合連合会御宿支部(高梨次郎支部長)は、現在百二十人の部員が一丸となって目的達成に力を入れています。この組合に加入している職種は建築、佐官、ブリキ業などが主体で、労働災害保険や医療費の給付などの助け合いをしています。今後は、労災保険の給付内容の改善と手間代(労賃)の向上、統一賃金など、身分保障に総力を結集し優秀な技能士育成に力を注いでいきたいとはりきっています。



◇おめでた

一月 男5 女8 計13
区名 出生児 性別 保護者
須賀 神定 芳美 女 善男
浜 鶴岡 英樹 男 利夫
浜 式田 恵美 女 辰衛
浜 鶴岡 美江 女 武志

高山田 井上尚人 男 信幸
久保 井上 正人 男 政美
新町 青木 悠 女 健二
〃 東 千春 女 重成
〃 水上 知子 女 好雄
実谷 吉野 昇 男 徳夫
〃 吉野 大輔 男 茂夫
〃 吉野 梨詠 女 善孝
〃 吉野佐知江 女 次雄
◆おくやみ

一月 男4 女4 計8
区名 死亡者 年齢 死亡日
須賀 神定 操 67 1月7日
〃 伊藤 すゑ 75 1月8日
浜 堀井 傳造 75 1月2日
〃 六軒町 花澤とみ 98 1月16日
岩和田 丸山かん 90 1月24日
〃 瀬川 とら 89 1月2日
実谷 吉野 明 69 1月6日
上布施 石井一郎 80 1月3日

三月から葬儀の花輪を廃止

区長会の音頭で生活改善

御宿町区長会では、生活改善の一環として葬儀の花輪を贈ることを自粛しようと立ち上りました。そして一月二十六日行われた区長会で出席者全員の決議として、三月から実施することにし、各家庭にこの趣旨を知らせ、協力をおねがいしました。花輪廃止のきっかけは、こうです。最近の道路交通事情の悪化や花輪を墓地などに運ぶ人手の確保など各地区や家庭での悩みがきかれます。このため区長たちは、区

民の生活改善や虚礼廃止を進めるためにぜひこの考えを徹底させたいといっています。しかしこのような呼びかけは、地域区民だけでは効果はありません。よその市町村に住む人にも、この趣旨をよく知っていただき、親せき、知人などの関係ある人からの申し出に對しことわることができるようになりたいものです。そして、まず改善できることから手がつけ金銭、労力などの負担をなるべく少なくするようおたがいに研究しましょう。

110番はこんな要領で

何が(けんか、ひき逃げなど)いつ、どこで現場の目標は(〇〇商店)何が人犯人は(人相、服装、年齢)何人か自分の住所、氏名、電話番号あわてずに、はっきりと

人	口
(1月末現在)	前月比
男女計世帯数	011
3,930	1
4,483	
8,413	
2,271	

発行所

千葉県御宿町役場

発行責任者

岩井敏夫

編集者

加藤長